

定期作況報告

平成29年8月
(8月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

7月下旬：最高気温は平年並で、最低気温および平均気温はともに平年よりやや高かった。降水量は平年より少なかった（平年比59%）。日照時間は平年並であった（平年比87%）。

8月上旬：最高気温は平年より極めて低く、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年より極めて低かった。降水量は平年より少なかった（平年比21%）。日照時間は平年より少なかった（平年比32%）。

8月中旬：最高気温、最低気温および平均気温はともに平年より極めて低かった。降水量は平年より少なかった（平年比4%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比59%）。

以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は、気温は平年より低く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年よりやや少なかった。

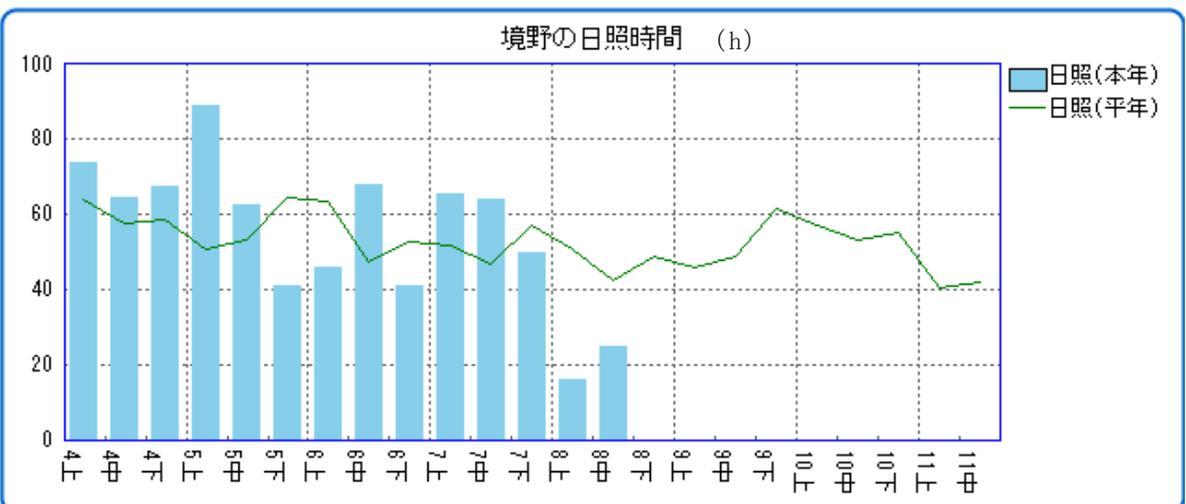
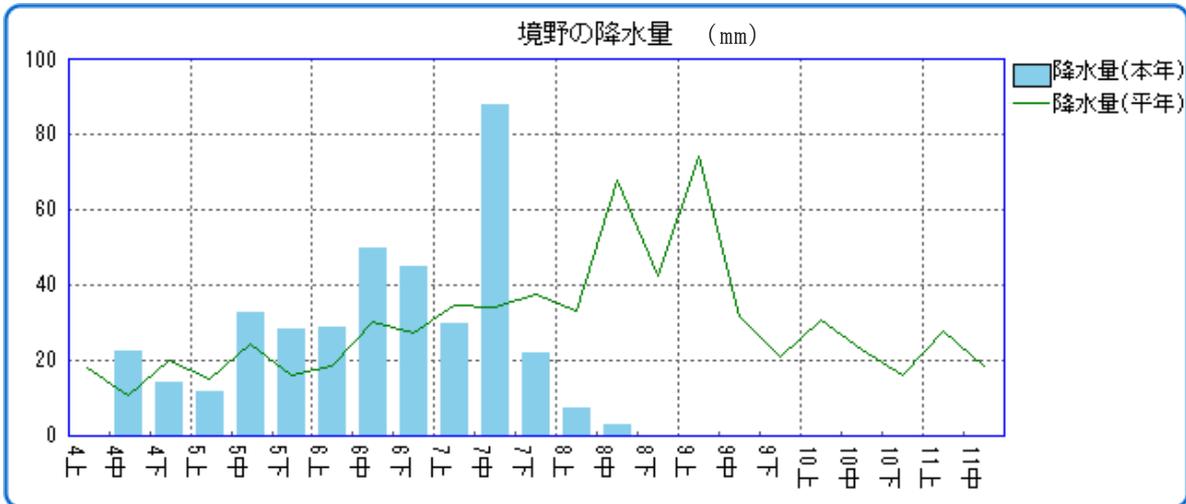
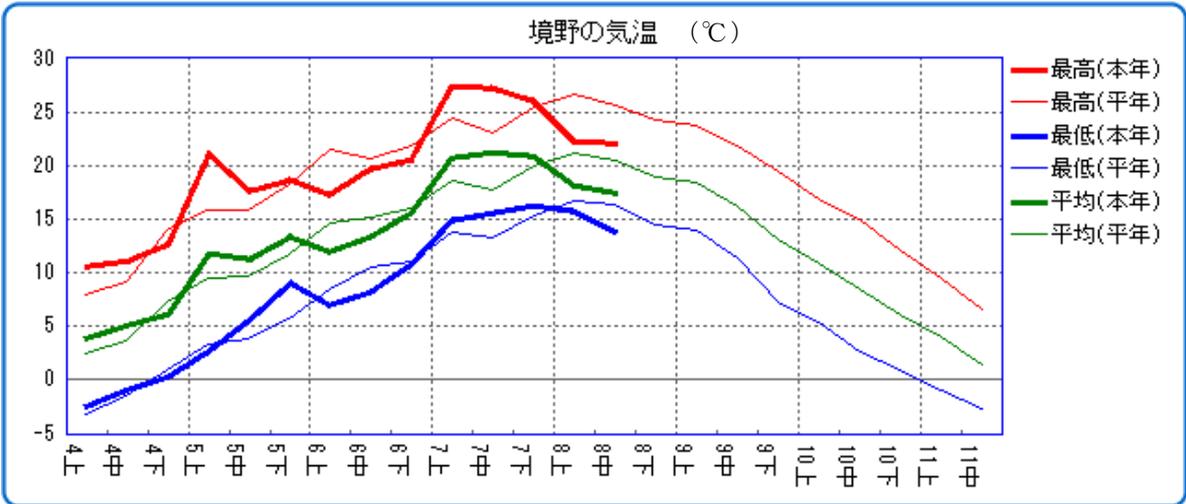
気 象 表

月 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	20.8	20.0	0.8	26.0	25.5	0.5	16.2	15.3	0.9
8月 上旬	18.2	21.2	-3.0	22.2	26.6	-4.4	15.8	16.7	-0.9
8月 中旬	17.5	20.4	-2.9	22.1	25.6	-3.5	13.8	16.3	-2.5

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	22.0	37.4	-15.4	49.8	57.0	-7.2
8月 上旬	7.0	32.9	-25.9	16.0	50.5	-34.5
8月 中旬	3.0	67.7	-64.7	25.1	42.3	-17.2

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作況：不良

事由：7月上～中旬の気温が高く経過し、登熟が促進されたことから成熟期は7月21日で平年より4日早く、登熟期間は平年より3日短かった。リットル重は平年並であったが、千粒重は平年を下回った。穂数が少なかったことと（前報）千粒重が小さかったことから、子実重は平年比93%であった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	7.21	7.25	△4
子実重(kg/10a)	675	722	△47
同上平年比(%)	93	100	△7
リットル重(g)	799	800	△1
千粒重(g)	36.6	38.8	△2.2

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、27年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作況：やや不良

事由：出穂期は平年より3～4日遅かったが（前報）、7月の気温が高かったことから登熟は進み、成熟期は平年並から1日遅かった。このため、登熟期間は平年より短かかった。倒伏程度は甚で（前報）、赤かび病の発生が目立った。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.5	8.5	0	8.7	8.6	1

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、27年(最豊)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況：平年並

事 由：開花期は平年並で、抽糸期は平年より1日遅かった。7月下旬の気温が平年より高かったものの、8月上・中旬の気温は平年より低く経過し、草丈と葉数はともに平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
開花期 (月.日)	8.1	8.1	0
抽糸期 (月.日)	8.1	7.31	1
草丈(cm) (8月20日)	322.6	306.9	15.7
葉数(枚) (8月20日)	15.0	14.9	0.1

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大 豆

作 況：平年並

事 由：8月上～中旬が低温寡照に経過したことから、主茎長、主茎節数、分枝数とも平年をやや下回っているが、開花期間である7月下旬の気温が比較的高かったことから、着莢数は平年をやや上回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
主茎長(cm) (8月20日)	66.8	72.1	△ 5.3
主茎節数 (8月20日)	10.6	11.3	△ 0.7
分枝数(本/株) (8月20日)	4.8	5.7	△ 0.9
着莢数(莢/株) (8月20日)	83.6	78.2	5.4

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

5) 小豆

作況：不良

事由：7月の高温により、開花始は「サホロシヨウズ」で平年並となり、「エリモシヨウズ」では平年より2日早かった。しかし、8月上～中旬が低温寡照に経過したため開花・着莢の進行は遅れ、いずれの品種も着莢数は平年を大きく下回っている。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.21	7.21	0	7.22	7.24	△ 2
主莖長 (cm) (8月20日)	74.3	82.3	△ 8.0	67.3	72.7	△ 5.4
主莖節数 (8月20日)	13.5	13.8	△ 0.3	14.7	14.3	0.4
分枝数 (本/株) (8月20日)	3.9	4.7	△ 0.8	4.3	4.8	△ 0.5
着莢数 (莢/株) (8月20日)	29.4	59.6	△ 30.2	30.8	62.2	△ 31.4

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

6) 菜豆

作況：やや不良

事由：草丈、主莖節数は平年並で、分枝数は平年をやや上回っているが、着莢数は平年より少ない。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
草丈 (cm) (8月20日)	47.8	50.3	△ 2.5
主莖節数 (8月20日)	5.3	5.2	0.1
分枝数 (本/株) (8月20日)	6.0	5.0	1.0
着莢数 (莢/株) (8月20日)	17.1	22.0	△ 4.9

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが4cm以上のものを示す。

7) ばれいしょ 作 況： やや不良

事 由： 8月上旬以降、日照時間が平年より少なく、上いも重は「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年をやや下回っている。でん粉価は、両品種とも平年並である。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎長(cm) (8月20日)	57	51	6	98	79	19
上いも重(kg/10a) (8月20日)	4338	4558	△220	3593	3819	△226
でん粉価(%) (8月20日)	15.6	15.4	0.2	21.4	21.1	0.3

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均

8) てんさい 作 況： 不良

事 由： 8月上・中旬は、気温が平年より低く、日照時間が少なかったため、生育は停滞し、茎葉重、根重、根周は平年を下回った。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	58.6	63.2	△4.6	59.0	58.3	0.7	61.3	63.2	△1.9
生葉数(枚) (8月20日)	23.2	23.0	0.2	25.1	26.3	△1.2	21.4	21.1	0.3
茎葉重(g/個体) (8月20日)	650	767	△117	753	881	△128	616	793	△177
根重(g/個体) (8月20日)	625	791	△166	641	820	△179	445	553	△108
根周(cm) (8月20日)	29.8	33.1	△3.3	32.2	34.6	△2.4	25.3	28.5	△3.2

注1) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、26年(最豊)を除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況：平年並

事由：2番草は平年と同じ8月10日に収穫を行った。2番草収穫時の草丈は平年に比べ高かったが、節間伸長程度は平年並であった。2番草の乾物収量は平年比92%と少なかった。一方、1番草との合計乾物収量は平年比100%と平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ノサップ		
	本年	平年	比較
刈取日(月.日) 2番草	8.10	8.10	0
節間伸長程度 2番草	3.0	2.9	0.1
病害罹病程度 2番草	4.0	3.2	0.8
草丈(cm) 2番草	69	58	11
生草収量(kg/10a) 2番草	666	859	△193
乾物率(%) 2番草	25.4	22.1	3.3
乾物収量(kg/10a) 2番草	169	183	△14
同上平年比(%) 2番草	92	100	△8
乾物収量(kg/10a) 1+2番草	772	775	△3
同上平年比(%) 1+2番草	100	100	0

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、27年(最凶)を除く5か年の平均。

節間伸長程度は、1:無~9:極多。病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

10) たまねぎ

作況：平年並

事由：7月の気温が高めに推移したことから、試験ほ場全体に地上部の葉先枯れ症状が若干認められた。倒伏期は平年よりやや早かったものの、一球重は概ね平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	オホーツク222			北もみじ2000		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
倒伏期 (月.日)	7.28	7.31	△3	8.2	8.5	△3
根切日 (月.日)	8.12	8.13	△1	8.18	8.24	△6
枯葉期 (月.日)	8.19	8.20	△1	-	8.26	-
一球重(g) (8月20日)	261.1	274.4	△13.3	242.2	246.5	△4.3

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。